第１回市民館跡地利活用構想及び文化小ホール基本構想・基本計画に関する有識者検討会議

令和6年3月25日（月）14:00～15:30

周南市役所 企画部 企画課

議事

１．市民館跡地利活用に向けた経過
- -1　構想策定の経緯
- -2　市民館跡地利活用の方向性

２．スケジュール
- -1　構想等策定スケジュール
- -2　有識者検討会議スケジュール案

３．文化芸術や劇場ホールの状況
- -1　文化芸術に関する社会的潮流
- -2　劇場・ホールを取り巻く状況
- -3　劇場・ホールの事例
- -4　市内ホールの状況

４．市民意見聴取の結果（速報）
- -1　市民アンケート
- -2　市民ワークショップ
- -3　団体ヒアリング

５．市民ニーズから見える文化小ホールの考え方
- -1　課題・ニーズの整理
- -2　文化小ホールに求められる方向性
- -3　文化小ホールに求められる役割

１．市民館跡地利活用に向けた経過

1-1. 構想策定の経緯

- 周南市市民館（昭和31年開設）は、平成27年12月末をもって閉館、解体
- 平成26年に策定された「周南市庁舎建設基本計画」では、「市民館は、新庁舎建設を機に解体する。解体跡地は、新庁舎建設期間中、現場事務所、資材置き場、来庁者及び公用車駐車場として活用し、市民館跡地の将来的な利用については、公共的な用途を前提とする。」こととしている。
- また、周南市市民館解体で失われるホールを備えた施設の確保に関する陳情が、1万4,420名の署名を添えて市議会へ提出
- 市議会は、陳情を不採択としたが、「どういったものがこの「緑と文化のプロムナード」の一角となるにふさわしいのか、市民参画のもと、文化施設をも視野に入れた将来的な構想をつくり上げる必要がある」という意見を付している。

市民館跡地の利活用構想及び
文化小ホールの基本構想・基本計画の策定

1-2. 市民館跡地利活用の方向性

1 市内に点在する国の機関の集約化

- 対象は、地方法務局、徳山税務署、徳山労働基準監督署、徳山公共職業安定所、自衛隊周南地域事務所
- 今後、国が国公有財産の最適利用プランを策定して整備
- 行政ゾーンへの集約化に伴う利便性の向上

2 文化小ホールの整備

- 本市の文化力の向上やまちの賑わいの創出
- まちの魅力や都市の吸引力向上
- 市民ニーズを把握した最適なホールの整備

3 徳山保健センター等の機能拡充

- 現徳山保健センターの解体
- 保健センター機能や子育て支援機能の拡充、その他機能を整備
- 文化小ホールと複合化による世代間交流の促進

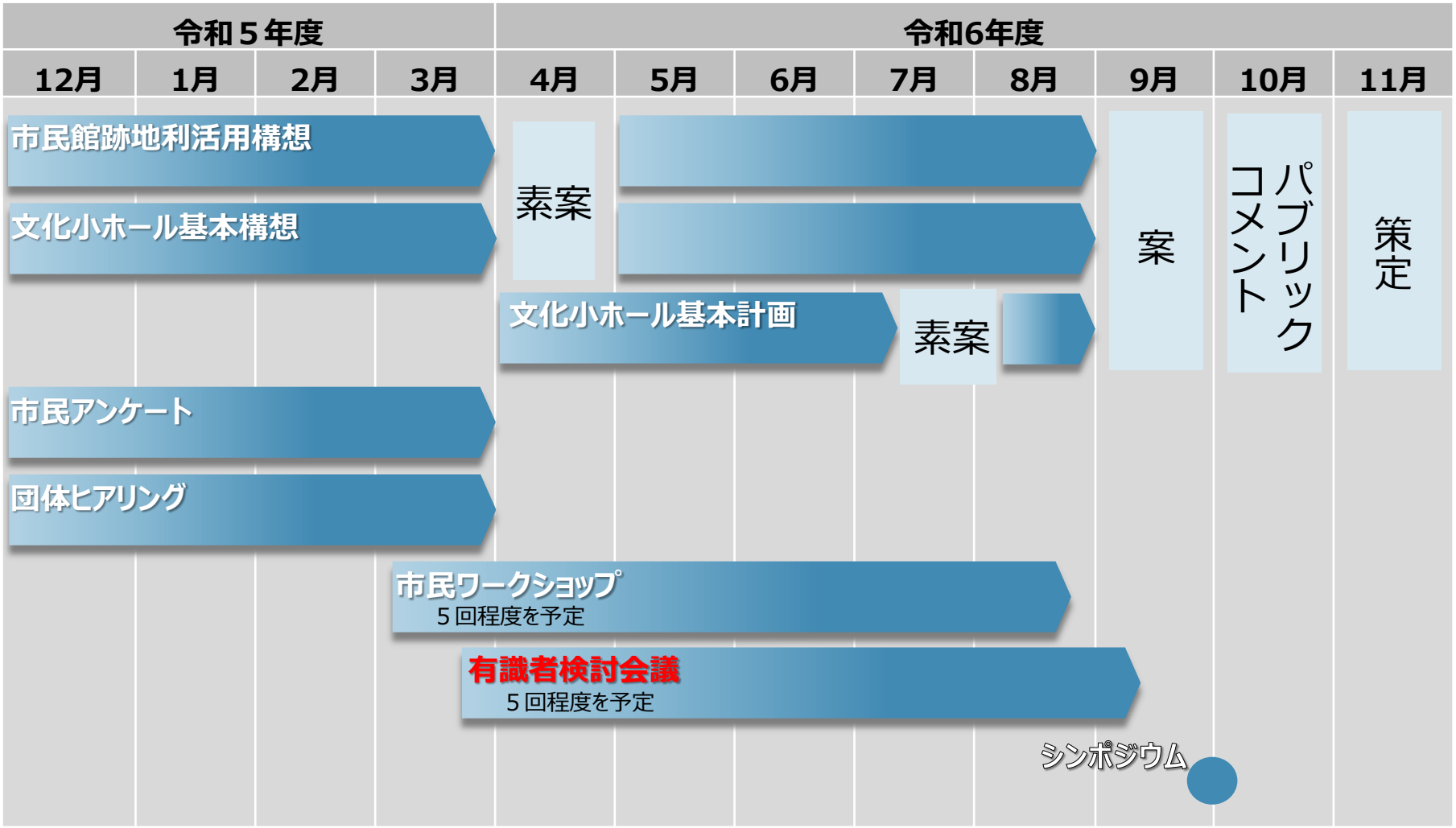
4 駐車場の整備

- 国の庁舎や、文化小ホール、複合化する市の施設、本庁舎を利用される方を想定
- 立体駐車場の整備

1-2. 市民館跡地利活用の方向性

２．スケジュール

2-1. 構想等策定スケジュール



2-2. 有識者検討会議スケジュール案

第１回	1. 市民館跡地利活用に向けた経過 2. スケジュール 3. 文化芸術や劇場ホールの状況 4. 市民意見聴取の結果（速報） 5. 市民ニーズから見える文化小ホールの考え方
第２回	1. 利活用構想・基本構想の素案について 2. 市民意見聴取の結果報告 3. 複合化の施設機能について 4. 前提条件の整理
第３回	1. 事業方針について 2. 施設機能および規模について 3. 施設配置検討
第４回	1. 運営方針・組織について 2. 事業手法の検討
第５回	1. 基本計画素案について 2. 今後のスケジュールについて

３．文化芸術や劇場ホールの状況

3-1. 文化芸術に関する社会的潮流

■国の文化政策

2001（H13）年　12月	**文化芸術振興基本法制定**
2002（H14）年　12月	文化芸術の振興に関する基本的な方針（第1次基本方針）
2006（H18）年　12月	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 （バリアフリー法）
2007（H19）年　2月	文化芸術の振興に関する基本的な方針（第2次基本方針）
2011（H23）年　2月	文化芸術の振興に関する基本的な方針（第3次基本方針）
2012（H24）年　6月	**劇場、音楽堂等の活性化に関する法律**
2013（H25）年　3月	**劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取り組みに関する指針**
2014（H26）年　3月	文化芸術立国中期プラン ～2020年に、日本が「世界の文化芸術の交流のハブ」となる～
2015（H27）年　2月	文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次基本方針） －文化芸術資源で未来をつくる－
2017（H29）年　6月	**文化芸術基本法**
2018（H30）年　6月	障害者による文化芸術活動の推進に関する法律
2018（H30）年　6月	国際文化交流の祭典の実施の推進に関する法律

3-2. 劇場・ホールを取り巻く状況

【第一世代－施主の時代】公会堂⇒文化会館

―集会施設から舞台芸術施設へ―

大阪市中央公会堂（1918年）

※画像出典：施設HP　https://osaka-chuokokaido.jp/

日比谷公会堂（1929年）

※画像出典：東京都HP
https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2023/03/13/05.html

公会堂は講演、式典を主目的とするために舞台が狭く、舞台芸術には不向きである。
そのため、経済復興と共に全国で、講演・演劇からクラシックまで多目的に対応可能な、
市民会館・文化会館が建設されていった。

3-2. 劇場・ホールを取り巻く状況

【第二世代－芸術家の時代】 芸術館⇒パフォーミングアーツセンター

―多目的ホールから主目的ホールへ―

(走行式音響反射板と可動プロセニアム)

Bunkamuraオーチャードホール
（1989年）

※画像出典：施設HP https://www.bunkamura.co.jp/orchard/about/

かつしかシンフォニーヒルズ
モーツァルトホール（1992年）

※画像出典：施設HP https://www.k-mil.gr.jp/

大田区民ホール・アプリコ
（1998年）

※画像出典：大田区HP
https://www.city.ota.tokyo.jp/shisetsu/aprico/aprico_hall1.html

多目的ホールではなく、クラシック音楽に比重を置いた
主目的ホールが計画される。
客席と舞台の高さに一体感を持たせられる**「走行式音響反射板」**と、
舞台高さが可変できる**「可動プロセニアム」**が導入される。

3-2. 劇場・ホールを取り巻く状況

【第二世代－芸術家の時代】 芸術館⇒パフォーミングアーツセンター

―主目的ホールから専用ホールへ―

（公立コンサートホール、公立劇場の誕生）

水戸芸術館コンサートホールATM
（1990年）

※画像出典：施設HP　https://www.arttowermito.or.jp/hall/lineup/

彩の国さいたま芸術劇場大ホール
（1994年）

※画像出典：施設HP　https://www.saf.or.jp/arthall/

主目的ホールではなく、より専門性を高めた「クラシック専用ホール」や、
音響反射板が無く、舞台の大きさを考慮した「演劇専用ホール」が計画される。

3-2. 劇場・ホールを取り巻く状況

【第二世代－芸術家の時代】 芸術館⇒パフォーミングアーツセンター

―パフォーミングアーツセンターの誕生―

（創造から上演までの総合舞台芸術センター）

新国立劇場
（1997年）

※画像出典：施設HP https://www.nntt.jac.go.jp/

滋賀県立びわ湖ホール
（1998年）

※画像出典：施設HP https://www.biwako-hall.or.jp/

多面舞台、複数のリハーサル室、制作場などを持ち、
日常的な創造活動から上演・製作に至るまで完結できる、総合舞台芸術施設。
客席から見ることのできる主舞台の他に、舞台奥・上手袖・下手袖にも同規模以上の舞台を有する

3-2. 劇場・ホールを取り巻く状況

【第三世代－観客の時代、創客の時代】地域劇場・パブリックシアター

市民に愛される“地域の劇場”

市民組織による日常的な創造活動や
事業の企画制作－文化倶楽部

黒部市国際文化センター（1995年）

※画像出典：施設HP　https://www.colare.jp/

欧米型“パブリックシアター”

地域コミュニティにおいて
劇場が担う役割を追求

世田谷パブリックシアター（1997年）

※画像出典：施設HP　https://setagaya-pt.jp/

市民による運営員会・実行委員会による施設運営の下支え。
専門性の高い芸術・文化事業を展開するとともに、地域住民の主体的な地域文化創造活動や
国際交流等の活動を支援する環境を提供。

3-2. 劇場・ホールを取り巻く状況

【第三世代－観客の時代、創客の時代】地域劇場・パブリックシアター

市民参加－市民参画－市民主体　市民参加による運営システムの構築

金沢市民芸術村（1996年）

※画像出典：施設HP　https://www.artvillage.gr.jp

小美玉市四季文化館
みのーれ（2002年）

※画像出典：施設HP　https://minole.city.omitama.lg.jp/

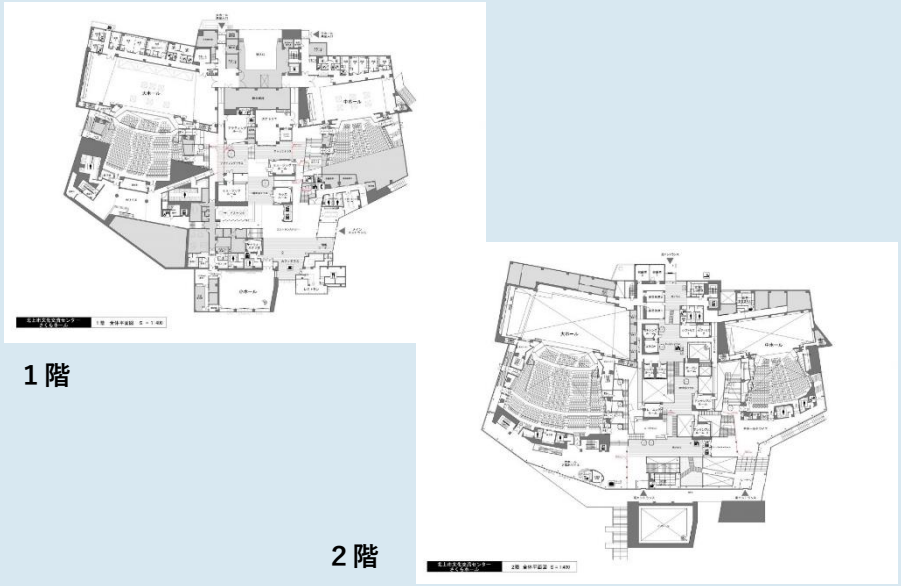
24時間365日の開館を支える市民による、自主的な施設管理（自分たちの施設としての意識）。
ボランティア組織 、企画から実行まで遂行するプロジェクトチーム 、
企画実行と運営ルール改善を図る委員会による、市民一体となった施設運営。

3-2. 劇場・ホールを取り巻く状況

【第三世代－観客の時代、創客の時代】地域劇場・パブリックシアター

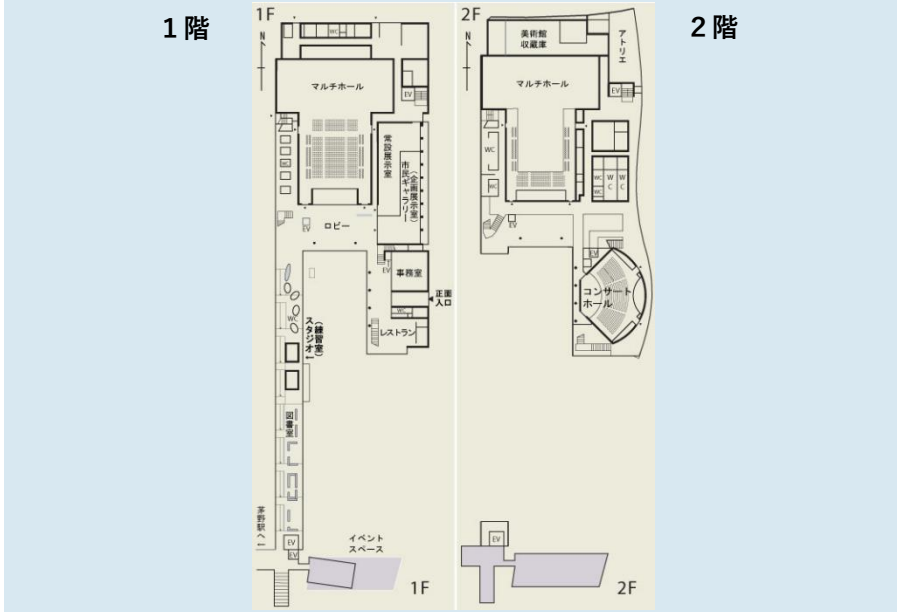
市民参加－市民参画－市民主体

・施設全体のにぎわいを創出するコミュニティ機能の充実
　（練習室群、図書室等の併設）
・多様性のある空間で、これまでにない様々なタイプのイベントを実施



北上市文化交流センターさくらホール（2003年）

※画像出典：施設HP　https://www.sakurahall.jp/



茅野市民館（2005年）

※画像出典：施設HP　http://www.chinoshiminkan.jp/

多用途に対応できる部屋の種類とその練習風景が見ることのできる部屋。
自由に利用できる共有スペースの充実。クラブイベント・結婚式にまで利用可能なホール。

3-2. 劇場・ホールを取り巻く状況

【第三世代－観客の時代、創客の時代】地域劇場・パブリックシアター

欧米型“パブリックシアター” ＋ 創造型事業の強化

- 芸術監督の配置　・学芸係(ドラマトゥルグ) の配置
- アートマネジメントの専門家雇用
- 地域劇場間の「横のつながり」を強化（共同制作、ツアー連携）
- 専属上演団体（クラシック音楽、演劇、コンテンポラリーダンス）

新潟市民芸術文化会館 りゅーとぴあ（1998年）

※画像出典：施設HP　https://www.ryutopia.or.jp/

可児市文化創造センター ala（2002年）

※画像出典：施設HP　https://www.kpac.or.jp/ala/

専門家の参画、専属ダンスカンパニー、交響楽団のフランチャイズ利用、市民参加による創作ミュージカルづくり、子どものための音楽や演劇事業など、地域に密着した事業展開。（次頁も同様）

3-2. 劇場・ホールを取り巻く状況

【第四世代－創造の時代】芸術家と市民のコラボレーション

北九州芸術劇場（2003年）

※画像出典：施設HP　https://q-geki.jp/

まつもと市民芸術館（2003年）

※画像出典：施設HP　https://www.mpac.jp/

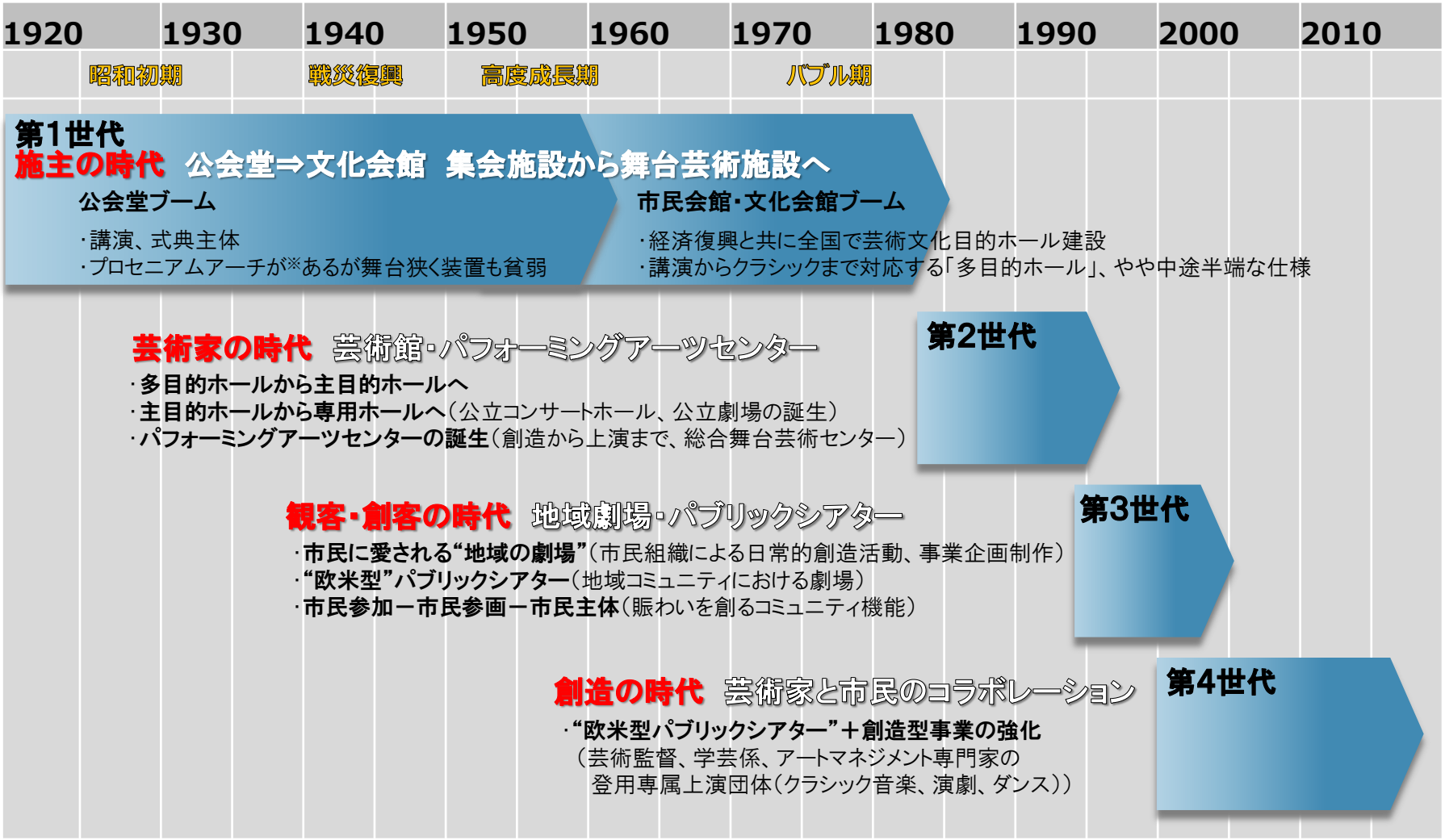
いわき芸術文化交流館　アリオス（2008年）

※画像出典：施設HP　https://iwaki-alios.jp/

神奈川芸術劇場（2011年）

※ホール画像出典：施設HP　https://www.kaat.jp/

3-2. 劇場・ホールを取り巻く状況



※プロセニアムアーチ：客席からみて舞台を額縁のように切り取る構造物

3-3. 劇場・ホールの事例

活動諸室の充実した施設事例

北上市文化交流センター
さくらホール

所在地　：岩手県北上市

開館年　：2003年

延床面積　：15,093㎡

施設の特徴

- **「アートファクトリー」として、**大・小21室の練習室・和室などを配置。
- 共用部から中の活動が見られるよう、各室の壁面は、ガラス張りとしている。

[練習室系]

ミュージックルーム１（生音系）

ミュージックルーム２（電気音響系）

アクティングルーム（舞踊系）

アンサンブルルーム1（小規模向）

アンサンブルルーム2（小規模向）

トレーニングルーム（声出し等）

和室　さくら
※和室はこの他２部屋あり

レッスンルーム１・２（小規模向）

※画像出典：施設HP　https://www.sakurahall.jp/

3-3. 劇場・ホールの事例

活動諸室の充実した施設事例

北上市文化交流センター
さくらホール

［制作活動系］

大アトリエ

スタジオ

小アトリエ

［ミーティング・ワークショップ等］

オープンルーム

多目的室

会議室

※画像出典：施設HP　https://www.sakurahall.jp/

3-3. 劇場・ホールの事例

ホール＋幅広い施設機能を導入した施設事例

さいき城山桜ホール

所在地　：大分県佐伯市
開館年　：2020年
延床面積：6,385㎡

施設の特徴

・大ホール（810席）、小ホール（140㎡）の他、5つのスタジオ、2つの会議室、創作工房、和室2室
・文化活動機能の他、まちづくり交流スペース（市民協働センター）、食のまちづくりスペース、子育て・子育ち支援室を導入しており、外部には広場も設置されている

大ホール プロセニアム形式

小ホール

スタジオ

大ホール シューボックス形式

創作工房

会議室２

※画像出典：施設HP　https://sakura-hall-saiki.com/

3-3. 劇場・ホールの事例

ホール＋幅広い施設機能を導入した施設事例

さいき城山桜ホール

子育て・子育ち支援室
「さくらっ子」

まちづくり交流スペース

食のまちづくりスペース

広場

※画像出典：施設HP　https://sakura-hall-saiki.com/

3-3. 劇場・ホールの事例

ホール＋幅広い施設機能を導入した施設事例

J:COM ホルトホール大分

所在地　：大分県大分市

開館年　：2013年

延床面積　：36,904㎡

施設の特徴

・文化・教育・情報・福祉・健康・産業・交流にぎわいの7つの機能を備えた複合文化施設

・市民ホール機能の他、図書館、大学のサテライトキャンパス、福祉保健センター、産業活性化プラザなどの機能が入っている

大ホール

図書館

スタジオ

小ホール

保育所

屋上公園

※画像出典：施設HP　https://www.horutohall-oita.jp/

3-3. 劇場・ホールの事例

多目的な施設機能を導入した施設事例

山口情報芸術センター YCAM

所在地　：山口県山口市

開館年　：2003年

延床面積：14,807㎡

施設理念：

市民やさまざまな分野の専門家とともにつくり、学ぶことを活動理念としながら、メディア・テクノロジーとの適切な向き合い方、文化基盤としての情報の可能性探求をおこない、次世代を担う人材の育成に寄与することを目指す。

施設構成：

・スタジオ
・図書館
・バイオラボ
・ラボ

（館のデザイナーやエンジニア、外部のアーティストたちが作業をする創作スペース）

・ギャラリー
・コミュニティスペース
・レストランスペース　　等

ホワイエ

スタジオA

スタジオB

スタジオC

ラボ

バイオラボ

※画像出典：施設HP　https://www.ycam.jp/

3-3. 劇場・ホールの事例

多目的な施設機能を導入した施設事例

八戸ポータルミュージアム はっち

所在地　：青森県八戸市

開館年　：2011年

延床面積：6,480㎡

施設理念：

「はっち」は地域の資源を大事に想いながら、新しい魅力を生み出していく

施設構成：

・シアター
・放送スタジオ
・ギャラリー
・観光展示
・カフェ・レストラン
・スタジオ

（音楽、食、工作、ものづくり）

・和室
・伝統工芸体験ブース
・こどもはっち

（交流スペース）

・工房
・共同スタジオ

（リハーサル、発表、展示対応）

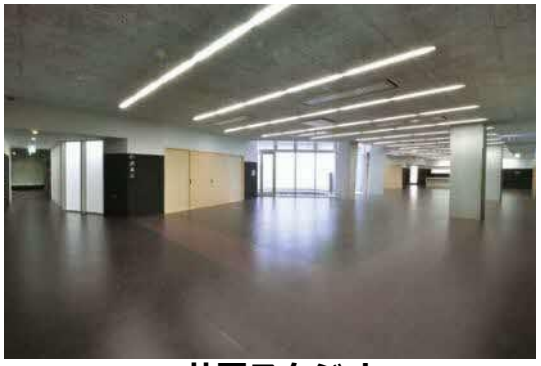
・レジデンス

シアター2

リビング4

ギャラリー２

こどもはっち



共同スタジオ

まちなか広場「マチニワ」

※画像出典：施設HP　https://hacchi.jp/

3-3. 劇場・ホールの事例

多目的な施設機能を導入した施設事例

津市久居アルスプラザ

所在地　：三重県津市

開館年　：2020年

延床面積：6,060㎡

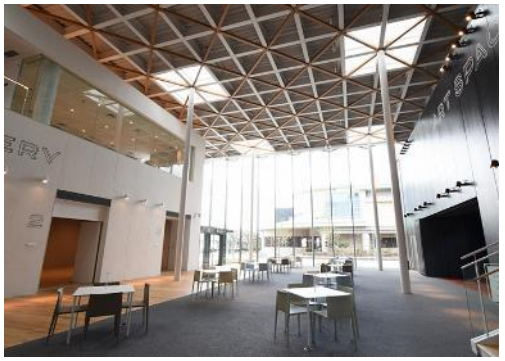
施設理念：
「地域をつなぐ開かれた独自性のある文化芸術の創造拠点」

施設構成：
- ときの風ホール
- アートスペース
- ギャラリー
- ミーティングルーム
- 屋外ステージ
- アートスクエア
- ひさいアートストリート
- 2階展示エリア
- アトリエ
- ピアノルーム
- ミュージックルーム１・２
- バンドルーム
- カルチャールーム１・２・３

アートスペース

ギャラリー

屋外ステージ



アートスクエア

ひさいアートストリート（壁面展示）

アトリエ

※画像出典：施設HP　https://www.tsuhisai-ars.jp/

3-3. 劇場・ホールの事例

多目的な施設機能を導入した施設事例

須賀川市民交流センター tette

所在地　：福島県須賀川市

開館年　：2019年

延床面積　：13,698㎡

施設理念　：

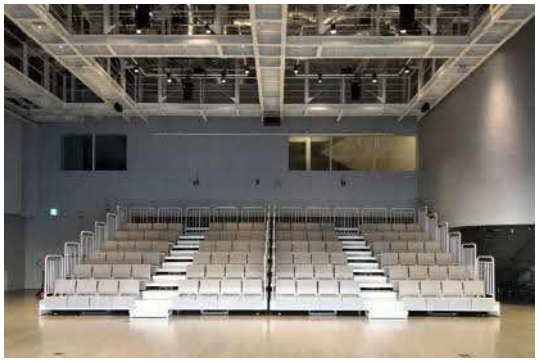
人を結び、まちをつなぎ、
情報を発信する場の創造

施設構成：

- 市民活動サポートセンター
- ホール
- イベントスペース
- 工作室
- 会議室
- 調理室
- 和室
- 練習室
- 学習ルーム
- こどもセンター
- 須賀川市中央図書館
- 円谷英二ミュージアム

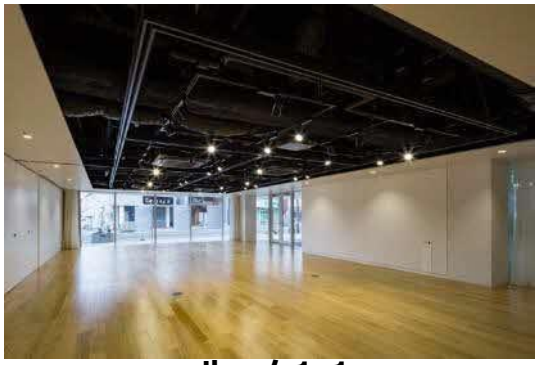
共用部

共用部



たいまつホール

でんぜんホール



ルーム1-1

ルーム4-3

※画像出典：施設HP　https://s-tette.jp/

3-3. 劇場・ホールの事例

多目的な施設機能を導入した施設事例

武蔵野プレイス

所在地　：東京都武蔵野市

開館年　：2011年

延床面積：9,809㎡

施設理念：
人とひとが出会い、それぞれが持っている情報（知識や経験）を共有・交換しながら、知的な創造や交流を生み出し、地域社会（まち）の活性化を深める活動支援型公共施設

施設構成：
- 図書館
- スタジオ
（音楽、軽運動、クラフト、ダンス・演劇用）
- ギャラリー
- 市民活動スペース
- 市民活動情報コーナー
- ワークラウンジ、ワーキングデスク
- 会議室
- 青少年専用スペース

スタジオラウンジ

市民活動情報コーナー

図書館

ギャラリー

パフォーマンススタジオ

オープンスタジオ

※画像出典：施設HP　https://www.musashino.or.jp/place/index.html

3-4. 市内ホールの状況

	周南市文化会館	学び・交流プラザ	新南陽ふれあいセンター	熊毛勤労者総合福祉センター（サンウイング熊毛）
建設年	1982年	2014年	1990年	1998年
機能	音楽・演劇専用大ホール	多目的ホール	多目的ホール	多目的ホール
面積（ホール）	1,943㎡(2階席含む)	422㎡	952㎡	335㎡(ホール部分) 174㎡(ステージ部分)
客席数	1,647席（固定）	316席（可動）	1,080席（可動）	418席（可動）
付帯施設	楽屋１～７ 講師控室 リハーサル室 練習室１～３地下展示室 和室 3階展示室 食堂	交流アリーナ 武道場 新南陽図書館 交流室１～９ レクリエーション室 調理室 創作活動室 和室	福川図書館 福川武道館 新南陽プール 楽屋A～D リハーサル室 大・中・小会議室 調理実習室 和室 研修室 展示室	控室１・２ 会議室１・２ サークルルーム１・２ 研修室 文化教養室 トレーニング室 調理室

3-4. 市内ホールの状況

【令和４年度　周南市文化会館大ホール】

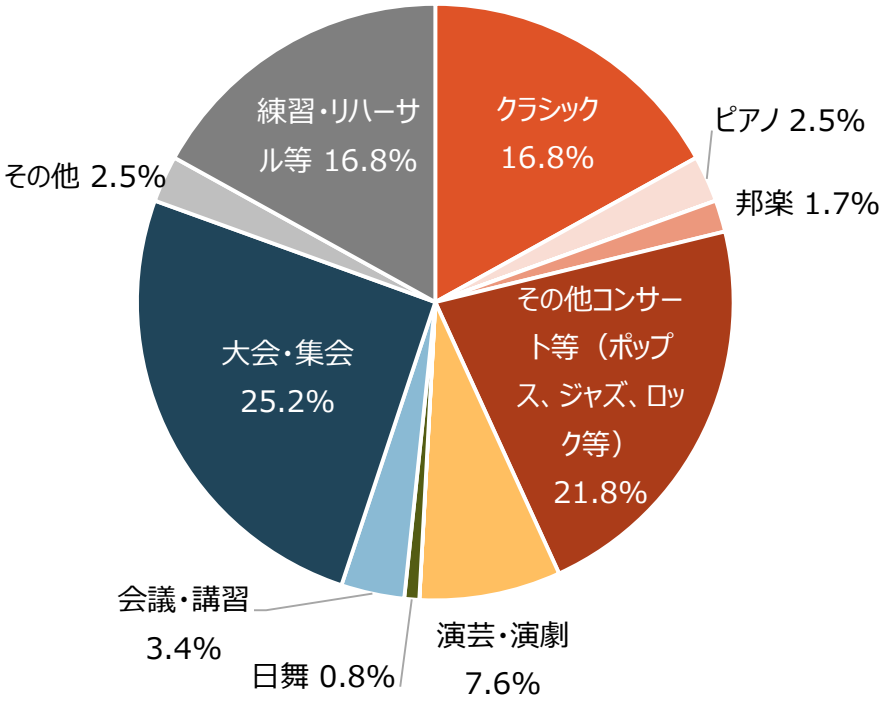
①利用ジャンル

- 「クラシック」「ピアノ」「その他コンサート」等を合わせた音楽利用は、42.8%。
- 「会議・講習」、「大会・集会」の合計は、28.6%。

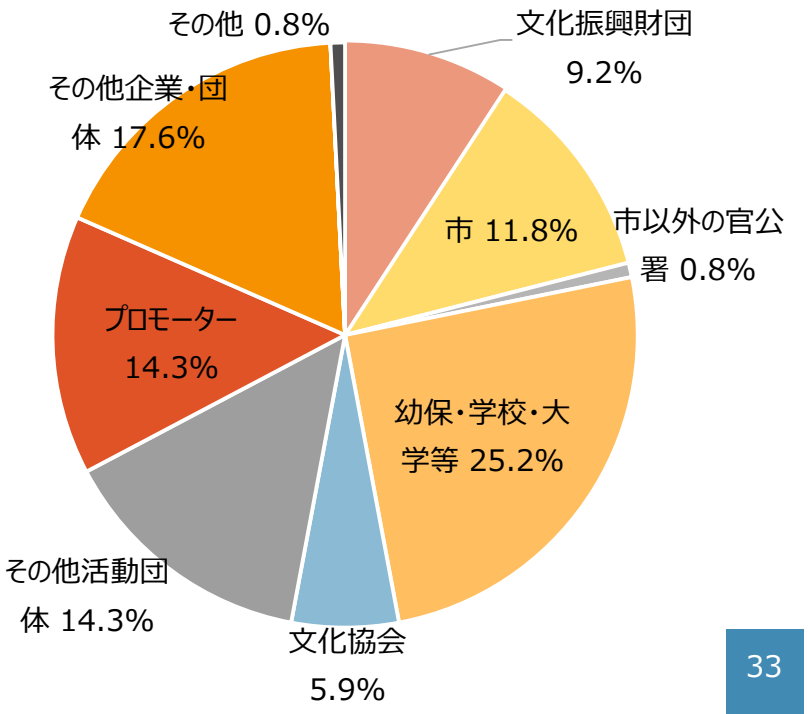
②団体ジャンル

- 学校関係や文化協会、その他活動団体、その他企業・団体による一定の利用がある。
- プロモーターによる興行としての利用は、14.3%。

利用ジャンル



団体ジャンル

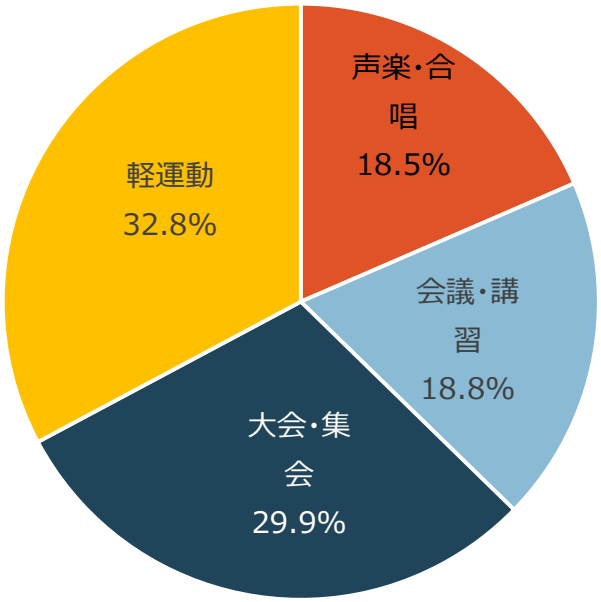


3-4. 市内ホールの状況

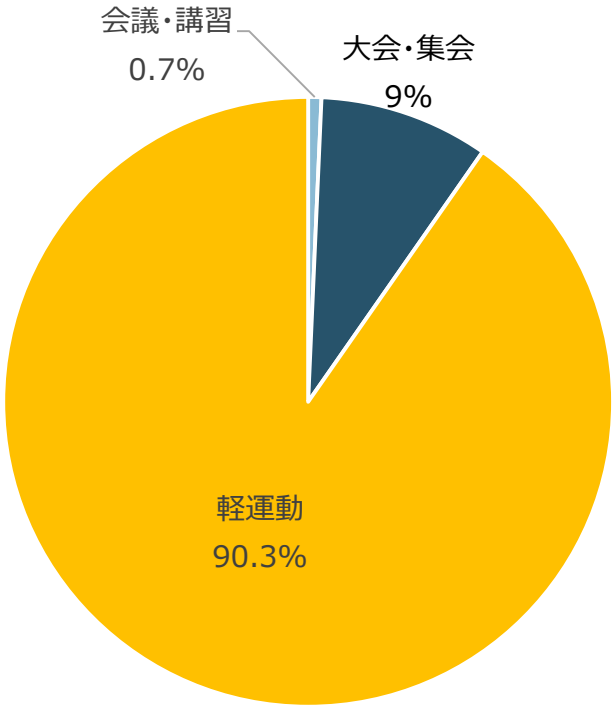
【令和４年度　市内ホール　利用ジャンル】

- 学び・交流プラザ多目的ホールの利用ジャンルは「会議・講習」と「大会・集会」 の合計が48.7% 、「軽運動」が32.8% を占めている。
- 新南陽ふれあいセンター、サンウイング熊毛の多目的ホールの利用ジャンルは、「軽運動」が9割以上を占めている。

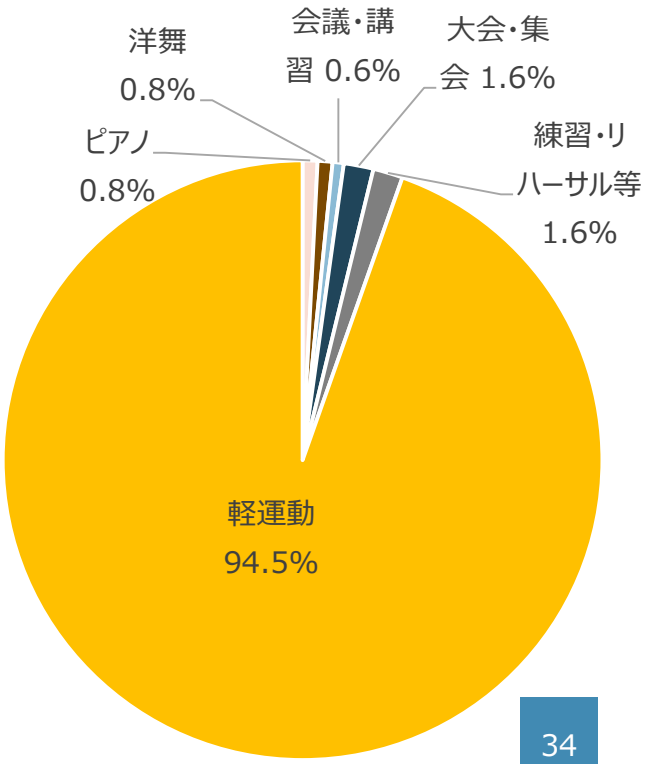
学び交流プラザ多目的ホール



新南陽ふれあいセンター多目的ホール



サンウイング熊毛多目的ホール



４．市民・団体からの
意見聴取の結果（速報）

4-1. 市民アンケート結果（速報）

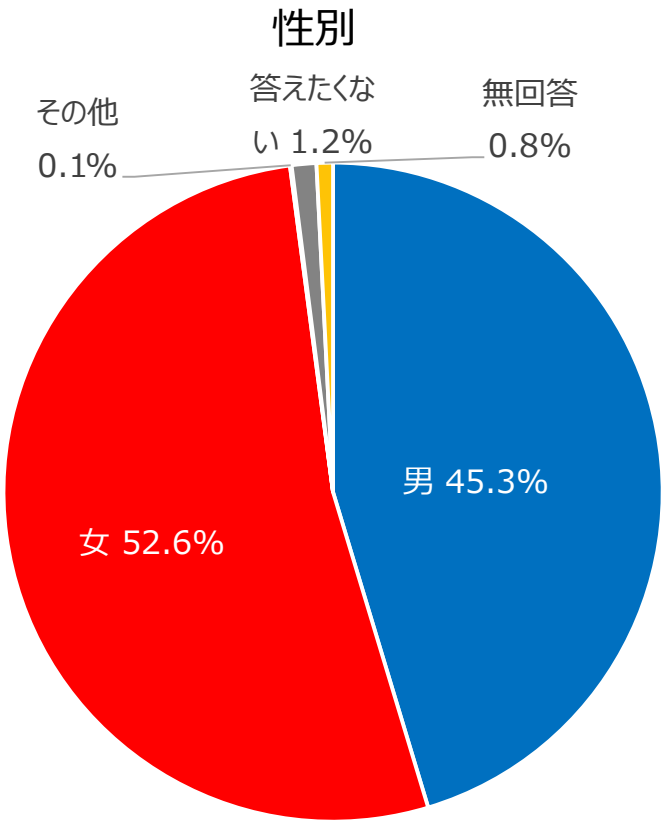
【アンケート概要】

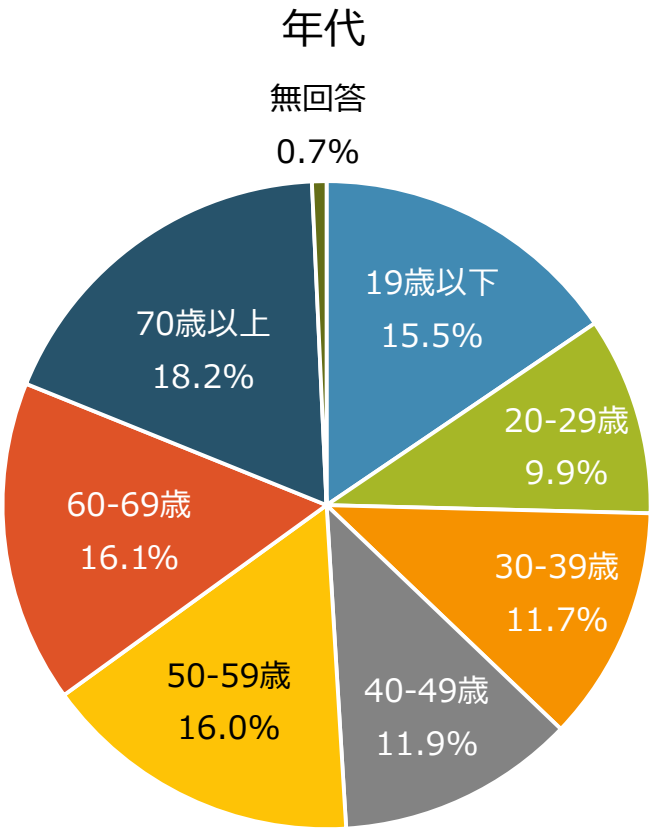
アンケート名	文化・芸術の意識に関するアンケート
実施時期	令和６年２月１日（木）～令和６年２月16日（金）
対象	市内在住の15歳以上の方より無作為抽出で選ばれた3,000人
回答数	WEB回答427件、紙面回答817件　計1,244件
回答率	41.5%
質問項目	文化・芸術鑑賞経験の有無 文化・芸術活動経験の有無 日ごろ鑑賞、活動、利用する施設 周南市市民館の利用経験の有無 周南市市民館の良い点 周南市市民館を利用した際に困った点 新たな施設に期待すること 等

4-1. 市民アンケート結果（速報）

【属性について】

- 男性の回答は45.3%、女性の回答は52.6%。
- 19歳以下から70歳以上まで**一定の回答があった**。



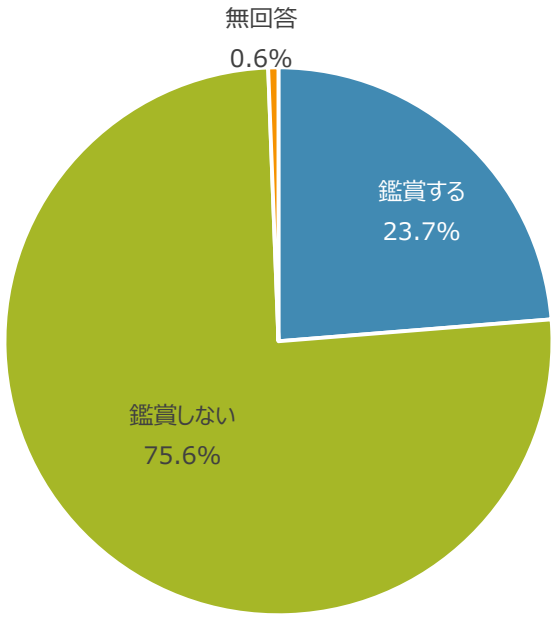


4-1. 市民アンケート結果（速報）

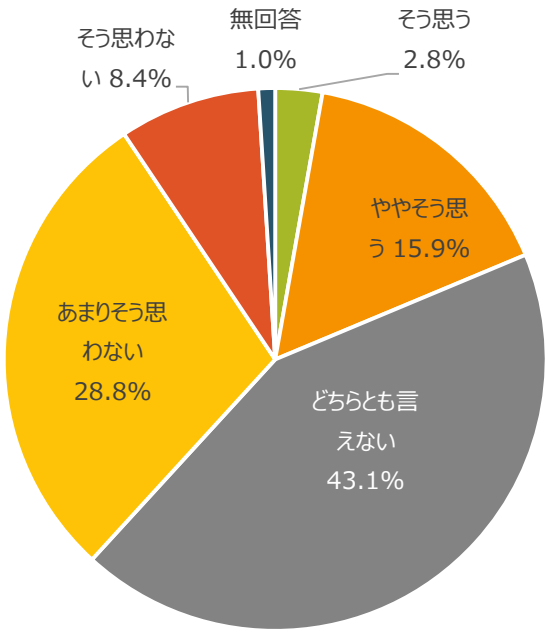
【周南市の文化芸術活動について】

- 「年１回以上劇場・ホールで公演等を鑑賞するか」という問いに対し、「鑑賞する」と答えた方は23.7%に対し、鑑賞しないひとは75.6%に上る。
- 「周南市は文化・芸術が活発なまちか」という問いに対し、「そう思う」「ややそう思う」と答えた方は**18.7%**。
- 「文化・芸術活動が活発なまちは魅力的だと思うか」という問いに対し、「そう思う」「ややそう思う」と答えた方は**81.2%**。
- 以上より、**周南市の魅力向上のためにも文化・芸術の振興は重要である**と言える。

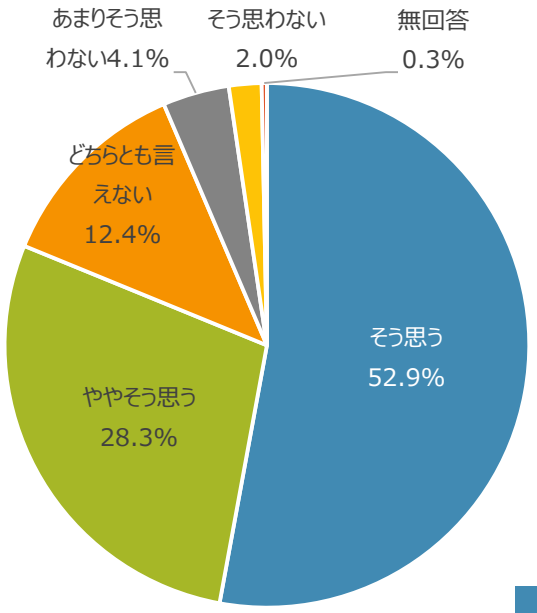
年１回以上劇場･ホールで公演等を鑑賞するか



周南市は文化･芸術が活発なまちか



文化･芸術活動が活発なまちは魅力的だと思うか



4-2. 市民ワークショップ結果

【ワークショップ概要】

ワークショップ名	これからの文化とまちづくりを考える市民ワークショップ
募集方法	1.公募 「広報しゅうなん」令和６年２月号や、ホームページ等で周知。 2.無作為抽出による参加依頼 住民基本台帳より無作為で抽出した18歳以上の市内在住者1,000名に対して、参加依頼の文書を送り、参加の承諾ハガキの返信をいただいた方
申込者	22名（公募：13名、無作為抽出：9名）
スケジュール（予定）	第１回（3月2日）：周南市のまちじまん・文化じまんから 施設の将来像を考えてみよう！ 第２回（4月）：イベントカレンダーをつくってみよう！ 第３回（5月）：文化小ホール全体のレイアウトを考えてみよう！ 第４回（6月）：文化小ホールに必要な機能を考えてみよう！ 第５回（7月）：市民参加について考えてみよう！ まちと、地域とつながるには どうしたらいいか考えてみよう！

4-2. 市民ワークショップ結果（速報）

【第１回の流れ】

周南市のじまん	旧施設・保健センター 施設のじまん	周南市のふまん	旧施設・保健センター 施設のふまん
どう伸ばす？新施設にどう活かす？		どう改善する？新施設がどうなると良い？	
施設の将来像（コンセプト）			

4-2. 市民ワークショップ結果（速報）

【第１回の流れ】

4-2. 市民ワークショップ結果（速報）

【第１回ワークショップでの意見（抜粋）】

■施設の将来像

・幅広い世代の居場所

・ずっと使われていく施設に

・周辺既存文化施設との差別化

・文化が集い、好きになる

・まど・みちお氏など、有名人を入れた施設名

・市民もプロも使いやすい

・ユニバーサルデザイン

・子どもが安全に遊べる

4-3. 団体ヒアリング結果（速報）

【団体ヒアリング概要】

アンケート名	新文化小ホールに関する団体ヒアリング
実施時期	令和６年１月３０日（火）～
対象	周南文化協会会員：40団体 楽器店（音楽教室）：３店舗 ピアノ講師：5名 ダンス講師：３名 音楽家：１名 声楽家：１名 ライブハウス：１店舗 市民劇場：１団体 部活動団体：7団体
質問項目	普段の活動内容 活動で施設を利用する際重視すること 今後挑戦してみたいこと 新施設に望むこと 市の文化振興に望むこと 等

4-3. 団体ヒアリング結果（速報）

【新施設に望むこと（抜粋）】

■ホールについて

ホール全体	・音響が良い　・舞台袖スペースは確保
座席数	
座席	・使いやすい発表に適した規模　・固定席　・狭くない親子室
ステージの広さ	・グランドピアノと出演者が並べる奥行　・座席数に合った広さ ・学生のアンサンブルコンサートをはじめとする少人数のものを開催できる広さ
機材	・音響反射板　・基本的な照明機材

4-3. 団体ヒアリング結果（速報）

【新施設に望むこと（抜粋）】

■諸室について

練習室	・防音　・鏡　・小さなスペースで色々な活動に使える
リハーサル室	・ステージと同じ広さ
和室	・茶道に使える炉をきってある和室
会議室	・10～30名程度で利用できる会議室　・30～40人集まれる会議室
ギャラリー	・市内には展示の場が少ない
楽屋	・楽屋～舞台への動線に留意する　・大部屋２、小さい部屋10部屋
その他	・土足で入れて片付けも簡単な諸室

4-3. 団体ヒアリング結果（速報）

【新施設に望むこと（抜粋）】

■その他

共用部	・広く、様々な用途で活用できるホワイエ ・音楽ができる･キッチンカー、マルシェなどに活用できる屋外スペース
設備・機能	・Wi-Fi設備　・配信設備　・十分な電気設備　・ピアノ ・大きめのエレベーター
駐車場・アクセス	・十分な数を確保　・地域との連携による駐車場の確保 ・バス網を充実
備品	・ティンパニ等の大型楽器は施設が保有し、貸出てほしい
施設全体（ハード面）	・バリアフリーへの配慮　・カフェ・軽食コーナー ・楽器等を置かせてもらえる倉庫　・市役所みたいに開けた施設 ・ガラス張りで活動が見える　・リゾート感 ・非日常感を感じられる施設
施設全体（ソフト面）	・使用料は安く　・ネット予約への対応　・予約を取りやすく ・運営者の柔軟な対応　・運営者が地元団体と密接に関わる ・舞台技術スタッフを配置

4-3. 団体ヒアリング結果（速報）

【新施設に望むこと（抜粋）】

■その他

子ども・若い世代へ受け継ぐ	・子どもの利用にも対応　・子どものための企画・施設 ・子どもの文化力を上げる　・学生が気軽に立ち寄れる ・一時預かり、子どもへの講座　・部活動の地域移行の拠点
多世代で日常的なにぎわい・交流	・日常的なにぎわいが生まれる施設　・イベントがない日にも人が来る施設 ・様々な交流を支援する施設　・まちのにぎわい創出 ・イベントの合間に飲食できる　・初めて来訪する方も参加できる
地域ならでは・まちづくりに寄与	・地域資源の活用　・周辺との連携　・市民のための施設 ・市のブランディングにも寄与する施設　・地域にも良い影響を与える
練習から発表まで、市民からプロまで	・練習にも使える場　・市民の練習から一流の公演まで ・地域の人の活動を支える
積極的に事業を企画・実施	・自主事業を積極的に行う施設　・人生の楽しみ、生きがいを醸成 ・市民生活に潤いを　・フェスなどによる盛り上げ拠点
幅広い分野・専門的な施設	・文化芸術に限らない幅広い分野の振興　・専門性のある施設 ・定期的にいろいろなジャンルでイベントを開催
人材育成	・人の養成

５．市民ニーズから見える文化小ホールの考え方

5-1. 課題・ニーズの整理

【課題・ニーズの整理】

	課題・ニーズ
まちづくり	まちの課題 ・若い子が楽しめる場所がない　・高齢者の行き場がない ・賑わいのある拠点形成を図る　・次世代につなぐ ・回遊性がない　・中心部に市民の使える場所がない　・国施設がまとまっていない ・ランドマークがない　・休日の過ごし方、過ごす場所を探している ・特徴ある文化の香りする建物が欲しい
市内施設	ハード面 ・バリアフリー　・音響が悪い　・駐車場が不足　・共用部トイレの不足 ・楽屋の不足　・洋式トイレ不足　・練習室が防音でない　・机や椅子の備品が古い ・ステージが狭い ソフト面 ・発表会、講演会、コンサート利用が多い　・吹奏楽利用が学校以外にある ・子ども向けイベントの開催回数が減少
新たな施設へのニーズ	ホール ・バリアフリー　・音響が良い　・座席は100～500席　・音響反射板を設置 ・ステージの広さは十分にとる 諸室　・リハーサル室　・防音の練習室 駐車場　・十分な数を確保 ソフト面　・ネット予約への対応　・使用料を安く　・柔軟な運営体制

5-2. 文化小ホールに求められる方向性

【文化小ホールに求められる方向性】

全体にかかる方向性	
・「新しい広場」として、地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える機能	・多様な文化を認め合う、豊かで彩りのある市民文化の育成
・市民主体の文化・芸術の活性化	・幅広い分野での質の高い舞台芸術・展覧会等の鑑賞機会の提供
・子ども・若い世代へ受け継ぐ	・多世代で日常的なにぎわい・交流を生む
・地域ならでは・まちづくりに寄与	・練習から発表まで、市民からプロまで
・積極的に事業を企画・実施	・幅広い分野・専門的な施設
・人材育成	・周辺との棲み分け
・非日常を楽しめる	・ハード面で特徴づける
ハード面	**ソフト面**
・市民にとって使いやすいホール ・様々な活動が可能な練習室 ・リハーサル室 ・会議室	・使いやすい予約システム、料金体系 ・柔軟な運営 ・専門人材の配置
将来像・コンセプト	
・文化が集い、好きになる	・未来を切り拓くまど ・プロも市民も納得いく施設

5-3. 文化小ホールに求められる役割

【文化小ホールに求められる役割】

視点１：地域コミュニティの創造と再生、地域の発展を支える

劇場法の「新しい広場」として、次のような取り組みを通じて地域コミュニティの創造と再生に寄与することが求められる。

取り組みイメージ
- **文化芸術に加え、まちづくり、教育、福祉、産業など多分野を集積させる**
- **多世代が自由に「日常」を過ごせる場、緩やかにつながる場を提供する**

視点２：地域の個性を発信する

周南市につくる新たな施設であるからこそ、周南ならではのものが求められる。

取り組みイメージ
- **市民主体で独自の文化・芸術を生み出し、育み、発信する**
- **子どもや若者が活躍し、文化を継承して新たな創造につなげる**

視点３：幅広い分野の事業を企画・実施し、日常も非日常も楽しむ

「ハレの場」としての「非日常」な体験の場を提供し、特別な時間を過ごせるようにすることが求められる。

取り組みイメージ
- **多様な嗜好、指向に応じた事業の企画・提供**
- **新たな発見、関心の喚起につながる事業の企画・提供**

視点４：持続的な運営のための人材を育成する

施設の運営の持続性を確保するための人材育成の充実・継続が求められる。

取り組みイメージ
- **専門的なノウハウ、知識を有する人材の育成**
- **運営をサポートする人材や団体の育成**